



連石 武則
水曜会
(60分)

(仮称)千年小中一貫教育校は

問

新たに示された計画の対象校のうち5校は学校規模・学校配置の適正化計画の検討校であり、現在地域等で説明会等を開いている。これまでの経緯からすると急転直下の政策変更と考えるが、その経緯と学校像は。

千年・内海中学校区の児童



石口 智志
水曜会
(65分)

介護予防・日常生活支援総合事業の今後の取り組みは

問

今後高齢者の数は増え続けると思われるが、支援する側とされる側という画一的な関係性ではなく、サービスを利用しながら地域とのつながりを維持できる仕組みづくりが急がれるのでは。

生徒数等の将来推計、学校施設の老朽化等を踏まえ、施設一体型の義務教育学校として整備し、魅力ある教育課程の編成や校舎の新築など教育内容と教育環境の充実を図り、教育水準の向上につなげる。

学校像は、両中学校区の豊富な地域資源を活用し、学校と地域と一緒に教育活動を展開するとともに、さまざまな人々と協働し、地域・国・世界の発展を担う人材の育成をめざす。子どもたちや保護者等に、「この学校で「学んでよかった」「学ばせたい」と思われる学校をめざす。

答

たとえ介護が必要な状態になったとしても、高齢者の尊厳を守りながら地域で自立した生活を継続するための施策を進めていくことが必要と考える。

そのため必要に応じて専門的なサービスを提供するとともに、社会福祉協議会の生活支援コーディネーターと協力し、住民が担い手として参加する住民団体などへ働き掛けを行い、高齢者のさまざまなニーズに応えるサービス提供体制を構築することにより、地域での支え合いの体制づくりを進める。



喜田 紘平
水曜会
(60分)

発達障がいのある子どもたちへの環境整備は

問

①就学後に発達課題が顕在化する児童が、医療機関を受診する待ち期間の短縮化は。
②医療・福祉・教育分野の連携体制の構築は。
③教育現場の個別の指導計画は。
④特別支援教育へのICTの活



中安加代子
公明党
(40分)

福山ネウボラは

問

①ネウボラ相談窓口の周知は。
②オリジナルの子育て支援アプリ開発の検討状況は。

答

①子育て家庭にとって、つながりの深い産科医や小児科医と連携を図り、保育所、民生委員等とも連携を広げていく中で周知に

用は。

答 ①引き続き医療機関や福山若草園との連携を図る中で、児童の支援に努める。

②就学後の課題等に対し、医療・福祉・教育分野が連携した地域支援ネットワークを構築する。
③障がい特性を踏まえた手だての具体化や指導内容の重点化が十分等の状況があり改善に取り組む
④通級指導教室へタブレットの導入を検討しており、特別支援学級でも一人一人の児童生徒の状況に応じて活用していく。

努める。また、ホームページ、SNS、マスメディアを活用するなど効果的な周知に努める。
②「ふくナビ」と「ふくやま子育てe-支援情報」を一本化し、必要な情報を分かりやすく、リアルタイムに入手できる仕組みをつくっていく。今後、開発を予定しているアプリは、現行の「ふくナビ」の機能や電子版母子健康手帳の機能など、さまざまな既存アプリの機能を比較し検証する中で、子育て家庭のニーズも踏まえ使いやすいアプリを開発する。

※**築切 (P.4)**：福山城の外堀と瀬戸内海につながる運河「入川」を遮断するため、石垣で固めた堤防状の土橋。外堀への船の出入りを封じ外堀の水位を保つ防衛上の目的で、築城から二十数年後までの間に造られたとみられる。

※**義務教育学校 (P.5, P.8, P.9)**：小学校6年間、中学校3年間の義務教育を、9年間の一貫した教育課程に基づき運営する新しい種類の学校。